

毎週日曜発行 2017 10/15

# こども新聞 週刊かほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



きょうの紙面

2 イマ★どき

3 3分チャレンジ

4・5 いいね

小学校

6 英語

7

かほくワークシート

8 投稿特集

続 お仕事  
の現場



3

助産師

伊藤 朋子さん (51)

＝仙台市泉区・とも子助産院院長＝



生まれて5日目の赤ちゃん。「よく元気に生まれてきたね」とほほ笑む伊藤さん

## ママに寄りそい安心感を

みんなは自分が生まれたときの話を聞いたことがある？ かほピョンはきょう、赤ちゃんを産むお母さんを手助けする助産師に会いに行ったよ。

「ほら、ここに赤ちゃんの目と鼻があって、これは足だね。大きくなってきたね」。泉区にあるとも子助産院の診察室。院長で助産師の伊藤朋子さん(51)が、来月出産予定の人のおなかの中を超音波で検査していま



助産院は病院ではありません。国家資格を持つ助産師がいて、妊婦健診や出産ができる場所です(出産を扱わない助産

す。赤ちゃんの元気な様子に、お母さんはホッとしましたよう。

院もあります)。伊藤さんは「お産は病気ではないけれど、お母さんにとってすごく大変なこと。多くの助けが必要です」と話します。だから、出産前から一人一人と丁寧に向き合い、アドバイスをしたり相談に乗ったり。



生まれるときは、家族も入院して一緒に赤ちゃんを迎えることもできません。きょうだいが、へその緒を切ってあげることもあるそうです。「お母

さんには産む力、赤ちゃんには生まれようとする力がある」と伊藤さん。「助産師は、二人が100パーセント以上の力を出せるように手助けします。誕生の瞬間は何度立ち会っても感動的」



無事に生まれた後も、関わりは続きます。「本当の意味で『お母さん』になっていくのを支えるのが、助産師の役割」。赤ちゃんの世話のしかたを伝え、「赤ちゃんが泣きやまない」「母乳を飲まない」といった悩みの

おなかの赤ちゃんの心拍数や動きなどを測る分娩監視装置。健診や出産のときに、赤ちゃんが元気がどうかチェックする

相談に乗り、お母さんの体調も気にかけます。「助産院はお母さんのホームグラウンド、助産師は応援団長。安心して産めて、その後もいつでも戻ってこられる場所でありたいです」

◇ 「産婆(今でいう助産師)は、人類のもっとも古くからある職業なのよ」と伊藤さん。今も昔も、人は助け合って子どもを産み育てていたんだね。

今週の注目ニュース

◇15日(日) 子ども白熱会議(東京・御茶ノ水ソラシティ)

「わたしだったら、こんな授業がしたい！」をテーマにして、小学生6人が意見を戦わせる教育プログラムだよ。

◇20日(金) 将棋の竜王戦7番勝負第1局(～21日、東京・セルリアンタワー能楽堂)

渡辺明竜王に羽生善治棋聖が対戦。六つのタイトルの永世称号を持つ羽生さんは、今回竜王になると史上初の「永世7冠」になるんだ。